

名工大ホモトピー論集会 05 - 4

文部科学省科学研究費基盤研究(B)(1) 課題番号 16340015 (代表 南 範彦)

による研究集会を開催致しますのでご案内申し上げます。

日時 : 2005年12月1日(木) ~ 12月2日(金)

会場 : 名古屋市昭和区御器所町名古屋工業大学

23号館(旧共通講義棟, 古墳のすぐ西側) 4階共通10講義室

名古屋工業大学ホームページのキャンパス案内:

<http://www.nitech.ac.jp/campus/index.htm>

には、以下の情報へのリンクが張られています。

- 1 所在地 (名工大近郊の地図による案内があります)
- 2 交通案内 (主な公共交通機関の路線図と名工大までの経路の案内があります)
- 3 建物配置図 (名工大敷地内の建物の案内があります)

講演者: 入谷 寛 (京都大学大学院・理学研究科)

講演題名: Givental の量子化の形式について

Givental は Gromov-Witten 不変量の代数的構造を記述するために、無限次元のシンプレクティックベクトル空間上の量子化の形式を導入した。本講演では、この量子化の形式を使って、量子 Lefschetz 原理や Virasoro 予想などがどう記述されるかを解説する。特に、Virasoro 予想の Givental による証明と (同変) ミラー対称性との関わりについて説明したい。時間的余裕があれば、量子異常コホモロジーや講演者の研究についても触れたい。講演の最初に量子コホモロジーや Gromov-Witten 不変量について簡単に述べるので、予備知識は特に必要ない。

プログラム

- 1 2月1日(木) 午後 13:00 ~ 15:00 講演01
- 1 2月2日(金) 午前 10:00 ~ 11:30 講演02
- 1 2月2日(金) 午後 13:00 ~ 14:30 講演03

1. 当該週(11月28日(月)~12月2日(金))には、近隣の名古屋大学多元数理研究科において東京都立大学大学院理学研究科の Martin Guest 先生が”Introduction to quantum cohomology, D-modules, and integrable systems” のタイトルにて集中講義を行われます：

<http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/research/calendar/data/1123132101-46.html>

12月1日と2日の両日は名大での Guest 先生の講演が16:30から開始されますが、両日とも名工大での入谷先生の講義に出席した後に名大に行き Guest 先生の講義に出席することも可能であるようにスケジュールを組んであります。

なお、入谷先生の講演と12月1~2日の Guest 先生の講演にはするが11月28~30日の Guest 先生の講演には出席できない方々の便宜を考慮し、ご希望の方々には11月28~30日分の Guest 先生の講演の手書きノートのコピーを用意いたします。こちらの勘違いによる写し間違いも多分あると思われ質も保証できませんが、それでもご希望の方々には、予め南範彦：minami.norihiko@nitech.ac.jp までメールにてお申し付け下さるよう、お願い申し上げます。

2. 12月2日(金) 15:00~16:30には、同じく名古屋工業大学23号館の1階共通1講義室にて、東北大学大学院理学研究科の小谷元子先生による「数学の楽しみ」という題目による一般向けの講演(1年生・2年生を主な対象とした講演会ですが、大学院生・先生方も楽しめる内容)がございます。入谷先生の講演終了後に、同じ建物の4階から1階に移動するだけで、小谷先生の講演に出席できます。

問い合わせ先

南 範彦 (名古屋工業大学・おもひ領域) minami.norihiko@nitech.ac.jp



体育館

國際交流會館

22號館

21號館

20號館

國際光學

54號館

6號館

18號館

53號館

52號館

23號館

19號館

17號館

課外活動
共用施設

51號館

1號館

3號館

16號館

15號館

24號館

2號館

14號館

13號館

11號館

12號館

本部

25號館

附屬圖書館

講堂

正門

have fun with mathematics

A TALK BY MOTOKO KOTANI

数学講演会「数学を楽しむ」

講師：小谷元子氏

東北大学大学院教授

日時：12月2日（金）

15:00-16:30

場所：23号館1階

共1講義室

一般向けの講演会です。小谷氏の専門分野である幾何学における古典的定理、最近の結果を例に数学の持つ美しさ（命題の簡明さ、公式の美しさ）を楽しむ。これらを通して、数学の本質である「諸処の現象（自然現象、社会現象）に現れるパターンを見つけ現象を解析する」という考え方が日々の暮らしの中でどう役立っているかを考える。

小谷元子氏は幾何学を専門とする気鋭の数学者で2005年度猿橋賞を受賞されました。猿橋賞は「女性科学者に明るい未来をの会」が自然科学の分野で顕著な研究業績を上げた女性科学者に贈るもので小谷氏は「離散幾何解析学による結晶格子の研究」により受賞されました。

工学教育総合センター 夏目利一